

はじめに

日本人の平均寿命は1991年の簡易生命表によると、男性76.11歳、女性82.11歳となり、依然として世界一の長寿国であることが明らかになりました。

21世紀には、4人に1人は65歳以上という未曾有の超高齢化社会が到来することとなり、すでに私達の生活の周辺には、高齢者の数が目立ってふえてきました。

当研究所では、1990年に「高齢者の身体的機能の変化に対応する商品」の調査研究を發表し、高齢者問題に深くかかわってきました。その研究の結果、思いの外多くの高齢者が自立し、社会活動を行っている実態を目のあたりにしたしだいであります。とはいえ、加齢に伴う身体的機能の低下や多少の病気は否めず、その行動に若年とは違うもののあることも事実といえましょう。

このような高齢者が、趣味や学習、買い物、財産管理、健康管理、病気治療などでさまざまな施設を利用し、また目的の場所へ行くまでに交通機関を利用する場合、どのような問題が起き、どのような不都合に直面するかを調査研究をするのが、今回の研究の目的であります。

前回に引き続き、この研究に当たっては（財）地域社会研究所、（財）姿勢研究所の助成を得ました。

調査の対象とした社会施設は①生活関連の施設として銀行・郵便局・市役所・スーパー・百貨店・病院、②文化活動関連の施設として美術館・劇場・地区センター・図書館・スポーツセンター・公園、その他③交通機関・道路であります。

研究に当たっては、まず高齢者の各社会施設や交通機関などの利用実態についてアンケート調査を行い、次に70歳以上の高齢女性の参加を得て、それらの箇所を目的に合わせて実際に使用していただいたうえの意見を伺いました。さらに同行した研究員は高齢者の利用状況を観察し、必要な計測をし、そのうえの考察を行いました。

その結果浮かび上がったさまざまな問題点につき、改善案を含めて各関係方面に提案するのが今回の研究の目的であります。

私たちの調査研究の結果が、来るべき21世紀に向けて高齢者が行動範囲を拡げ、いきいきと楽しみながら暮らす社会の実現に、活用されることを願ってやみません。

終わりに、本研究にご協力下さった延べ1171人の高齢者の方々、ならびにご指導下さった各関係者の方々に心より御礼申し上げます。

平成4年10月

商品科学研究所

所長 三枝佐枝子

-----<研究プロジェクトチームメンバー>-----

代 表	三枝佐枝子	(商品科学研究所 所長)
チームリーダー	近藤和子	(生活者活動部 部長)
サブリーダー	太田俊子	(荻窪テストキッチン・07 チーフ)
スタッフ	勝田榮子	(池袋テストキッチン・07 チーフ)
	矢野知子	(横浜テストキッチン・07 チーフ)
	渡辺弘美	(高槻テストキッチン・07 チーフ)
	大藤ミナミ	(CE研究グループ リーダー)
	福士仁三代	(荻窪テストキッチン・07 サブチーフ)
	羽鳥典子	(横浜テストキッチン・07 サブチーフ)
	篠崎敦子	(高槻テストキッチン・07 サブチーフ)
	松尾貴代	(池袋テストキッチン・07 スタッフ)
	木下ヒデミ	(荻窪テストキッチン・07 スタッフ)
	村上澄子	(横浜テストキッチン・07 スタッフ)
	安部史子	(高槻テストキッチン・07 スタッフ)
	細川裕子	(CE研究グループ スタッフ)